

全 員 協 議 会 記 録

令和3年2月5日(金)
10時00分～12時11分
議場

〔出席議員〕

川神議長、佐々木副議長
三浦議員、沖田議員、西川議員、村武議員、川上議員、柳楽議員、串崎議員、
小川議員、野藤議員、上野議員、飛野議員、笹田議員、布施議員、岡本議員、
芦谷議員、永見議員、道下議員、田畑議員、西田議員、澁谷議員、西村議員、
牛尾議員

〔執行部〕

市 長、副市長、金城自治区長、旭自治区長、弥栄自治区長、三隅自治区長、
教育長、総務部長、健康福祉部長（教育部参事）、産業経済部長、教育部長、
上下水道部長

〔事務局〕

局長、次長、浜野書記

議 題

1 執行部報告事項

- | | |
|--------------------------------|---------|
| (1) 浜田市国民健康保険診療所大麻診療所の診療体制について | (健康福祉部) |
| (2) 浜田市子育て世代包括支援センターについて | (健康福祉部) |
| (3) 浜田漁港周辺エリアの施設整備状況について | (産業経済部) |
| (4) 令和3年度公立幼稚園園児募集の結果について | (教育委員会) |
| | (健康福祉部) |
| (5) 1月7日からの凍結被害に対する上水道の状況について | (上下水道部) |
| (6) その他 | |

2 地域協議会との意見交換会の実施について

3 その他

【詳細は会議録のとおり】

【会議録】

〔 10時 00分 開議 〕

川神議長 | ただいまから令和3年2月5日の全員協議会を始めたい。
では議題に入る。

1 執行部報告事項

川神議長 | 市長から発言の申し出があったためこれを許可する。
市長 | 今日追加でお配りした中小企業者等特別応援給付金案について、説明させていただく。
昨年4月ごろ市内経済が底だった。その後G o T oキャンペーンなどもあり夏以降に持ち直しつつあった。しかしながら昨年12月以降、G o T oトラベル中止や2度目の緊急事態宣言、加えて県内では連日のように各地で感染者が発生していることから、市内事業者、特に飲食店や宿泊施設のみならず、東京へ魚や加工品を送っている事業者の業績も大変厳しい状況である。中にはこのままの状況が続けば事業をやめようかとお考えの事業者の声も耳に入っている。
こうした中で市としても次のような支援策を考えていると1日も早くお伝えすることで頑張っていたらこうと思ひ、本日発表させていただくものである。
事業内容をごらんいただきたい。
(以下、資料をもとに説明)

川神議長 | ただいまの件は3月定例会議に補正予算が提案されるので、質疑審査は議案質疑または付託委員会をお願いしたい。
本日確認しておきたいことがあればお願いする。

澁谷議員 | 大変すばらしい案を提出いただいたが、この3億2千万円はどれくらいの対象者を目安とされているか。

産業経済部長 | 今見積りをしているのは、商工会議所及び商工会から現状を聞き取りし、事業者の方のお話も聞く中で約千件を対象にしていたが、この中で申請されるのは約800件だろうと言うことで、800件をめどに積算し予算計上する予定としている。

牛尾議員 | 私は代表質問でもこの件について取り上げたいと思っている。第二次非常事態宣言が発出されてから、特に水産加工業や鮮魚の1月が大幅に落ちていると聞いており、第2弾はあるのか、いつになるのかという声が圧倒的に多い。そういう意味では非常にタイムリーであると評価を申し上げておく。

西川議員 | 給付額が法人・個人・売り上げ減少額によって決まっているが、法人の場合は中小企業といっても事業規模の大小がかなりある。事業規模によつての給付額を検討された経緯はなかったのか。

産業経済部長 | それも検討したがその線引きがなかなか難しいことと、今後

国からも同様の補助金が出る可能性もあるため、とりあえず浜田市としては、前は20から50をやったが今回は国がやるかどうかまだわからない状況の中、50%以上も全て浜田市が給付しようという考えでやる。

そういった中、とりあえず事業規模は法人と個人で分けさせていただいた。

川神議長

ほかにはよろしいか。

(「はい」という声あり)

(1) 浜田市国民健康保険診療所大麻診療所の診療体制について

川神議長

健康福祉部長。

健康福祉部長

(以下、資料をもとに説明)

川神議長

ただいまの報告について質疑はないか。

(「なし」という声あり)

(2) 浜田市子育て世代包括支援センターについて

川神議長

健康福祉部長。

健康福祉部長

(以下、資料をもとに説明)

川神議長

ただいまの報告について質疑はないか。

川上議員

子どものための木育ということで非常に喜ばしいことだと思うが、施設整備費、その他の項目に「案内標識設置、Wi-Fi設置」とあり約650万円増えている。案内標識設置とはどのようなものをお考えか。

健康福祉部長

看板設置については、バイパスをおりたところから施設までの間で4か所の設置を予定している。

川上委員

4か所で十分かどうかは私もわからないが、結構な数である。また、増額要因の中に「園庭に人工芝の敷設」とある。どのようなものを使い、面積はどのくらいで、概略どのくらいかわかれば教えてほしい。

健康福祉部長

なぜ人工芝にしたかというのと、乳幼児や小さい子どもが利用することから安全性を考慮して人工芝を選定している。そのことにより施工費が約2千万円かかる予定だが、本来のままで1千万円で済むところで、差し引き1千万円増額になった。

人工芝を植える前は防草シートを敷いて、その上に人工芝を敷設する予定である。

川上議員

人工芝は確かによいのだが、防草シートを張って人工芝となるとどうしても人工芝の厚さによっては防草シートから草が出てくる可能性がある。人工芝はどのようなものを使うか。

健康福祉部長

ここに書いてある性能でいうと、室内使用も考慮された防炎性能あり、消防法第8条の3の規定の合格商品となっており、芝上での火気使用や喫煙はNGである。さらに燃え広がることはないが、そこだけ焦げてしまうことがあると。

川上議員
健康福祉部長

日光想定ランプもちゃんとしておられ、耐熱や耐光性能も出ている。耐用年数は10年となっている。

10年後にはまた2千万円近くかかるということか。

10年後に2千万円かかるかどうかは私の立場でお答えするのは難しいが、防草シートが再度必要になるのかなども含めて、10年後、もしくはそれ以上になるのかわからないが、そこで検討したい。

川上議員

概略10年くらいだろうがその後はわからないというのであれば、しっかりその辺も検討していただいて。10年後に再度2千万近くかかるのか、500万円で済むのかということもお示しいただければうれしい。

健康福祉部長

それから「物価上昇に伴うもの」と書いてあったが、何の物価が上昇したのか。

使用資材の主なものとなる木材価格が相当上昇していることと、材料と工事費を合わせた材工費や、労務賃が年々引き上げになっていることも上げられている。

川上議員

木材価格というのは理解した。地元木材を使うことにしたので構造変更の部分で出てくる。その他もろもろだとは思っているが、この辺もしっかり精査していただきたい。

健康福祉部長

その他、床暖房の設置等がある。多分幼児のところにつくるのだろうが、全面ではないと思う。どの程度の面積か。

川上議員

言われたようにゼロ歳児から1歳児が主に利用する赤ちゃんの部屋であり、設置面積は約20平米、それ以外には畳などを敷く。

健康福祉部長

次ページの3番目の今後の整備スケジュールだが、この中には管理についてが書いてない。管理についてはいつごろ入札を考えているか。

川上議員

直営なので入札はないと考えている。

管理一式直営でやるということは、これは建築住宅課がやるということで理解した。

健康福祉部長

最後に完成イメージ図について。この模型は外観だけか、それとも中があるのか。

川上議員

裏面の模型については設計会社が独自につくったもので浜田市のものではなく、写真だけを撮らせていただいた。

浜田市においてはパース図を作成するので、そちらで見る形になる。

これだけの大きな設計をされるなら、その会社はBIMを使って設計されたと思う。これまでは3DCADでやっていたが最近では鳥瞰しやすく中がわかりやすいように、最初は時間がかかるが変更がしやすいBIMというソフトがあり、それを使っていれば中に入って見ることができる。プレゼンしやすい。住民にも見やすい。モデルも模型もつくりやすい。その会社はBIMを使っているかどうかわかるだろうか。

- 健康福祉部長 コンピュータ上に建物の3Dモデルが情報つきで立ち上がるシステムということでBIMということだと考えているが、今回実施設計をお願いした株式会社ジャクエツにおいては、導入されておられない。
- 川上議員 使われていないのは非常に残念である。使われていたらそのデータを使って視覚的に内覧ができるし外からの透視図もできる。誰が見てもわかりやすい。特にここを利用される方々に。子どもたちの目で見たとときに、大人の目ではわからない不安定なところが見えてくる。そういうのがあればよいと思って確認した。
- 健康福祉部長 できればこの模型を50分の1くらいにつくっていただいて、本庁舎の1階フロアに置いていただき、蓋をあければ内覧ができるようにして住民に見せていただきたい。ご検討いただけないか。
- 健康福祉部長 現在パース図を作成するので、それを市民ロビーに掲示するなどして検討はできるかと考える。4年4月には本物ができるので、ぜひ本物を見ていただきたい。
- 川上議員 模型をつくることは考えていなかったもので、今後どういう状況になるかはまた検討する。
- 川上議員 せっかく1,750万円もかけて詳細設計されるので、50分の1の模型をつくったら大体18万円から20万円である。それをやってもよいのではないか。ぜひご検討いただき、住民に紹介できるようにしていただきたい。
- 西川議員 当初の計画から増額とのことだが、地元産の木材を使うのはよいことだし、森林関係譲与税の使い道としてもよいと思う。
- 健康福祉部長 この施設の当初計画の前に、自然エネルギーなどをぜひ検討すべきという意見があった。先日の委員会でも太陽光発電を検討したが費用面で断念したという回答だった。もう少し詳しく教えてほしい。
- 健康福祉部長 当初は太陽光発電も検討されていたようだが、今回は屋根の形状も少し変わっていて、更に施設整備費が上がるため今回は断念している。
- 西川議員 一般的に太陽光発電をつけると売電分で産業用だと20年なので、投資は回収できる計算で、日当たりさえよければということで検討するのだが、それについて誰がどのように検討したのか。本当に検討されたのか。
- 都市建設部長 その当初、太陽光の質問が出て検討課題になったのだが、我々で実際に設計する段階で太陽光を導入することについては検討していない。
- 西川議員 環境課で住宅の太陽光発電や蓄電池などに補助金を出す事業をされている。地球温暖化対策ということで、新しく公共施設をつくる場合にももちろん自然エネルギーの導入を検討するべきなのだが、それを検討しないとはどういうことか。

- 都市建設部長 その経緯については今ここに資料がないので、また後日、どういうことで検討から外れたかをご説明させていただいてよいか。
- 西川議員 納得できる回答をお待ちする。
木造にされたということで構造が変わったのだが、断熱構造なども変わると思う。省エネや温暖化防止の補助金などはリサーチされているか。
- 健康福祉部長 今回の支援センターを立ち上げるときにはどのような補助金があるかを確認して、施設整備に当たっては各種交付金、内容は電源立地交付金や次世代育成支援対策施設整備交付金などを活用させていただき、また、森林環境譲与税基金、ふるさと応援基金第4号を充当する予定である。
- 西川議員 補助金資料はたくさんあるが、一般的に建築物を建てるときは国土交通省、経済産業省、環境省、諸関係の補助金がある。来年度については決まってないかもしれないが、通常4月から6月くらいに募集して年度内の事業に提供するのが多いのだが、今回令和4年4月にオープンとのことなので丁度令和3年度に事業がかかるので、そのような事業を検討しても補助金が得られるなら得られるべきだが、リサーチされていないと間に合わないが、その辺はどうか。
- 健康福祉部長 次世代育成支援交付金や、子育て支援センターにかかわる交付金については既に申請を予定しているので、その辺の準備はできている。ただ、電源立地に関係するところなどを今からしていく。
- 西川議員 申し上げているのは省エネ、温暖化などの補助金についてである。それについてのリサーチはどうか。
- 副市長 いろいろな交付金や補助金がある。ただ、ご承知のように国交付金や補助金は重複してはなかなか使えない。一つの対象物に対しては、補助率が高いとか、この事業に合っている補助金をどう選ぶかだと思うので、先ほどあったようなことも調べて、今は健康福祉部長が申し上げた国の支援メニューが一番有利だということで多分判断していると思う。
例えば、中には重複で申請できる交付金など、いろいろやり方があるので、省エネのものもまた改めて検討してこれから必要であれば対応してもらいたい。
- 西川議員 構造を木造に変えたとのことだが、屋根の構造については石州瓦の使用を検討されなかったのか。
- 健康福祉部長 石州瓦を載せると重さによってまた構造も変わってくる。検討したが予算の関係も含めて鋼板ぶきという形にさせていただいている。
- 西川議員 市産の木材が使われるとのことなので、ぜひ石州瓦を使用させていただきたかった。

健康福祉部長

先ほど人工芝の話が出たが、せっかく天然木材を内装に利用して子どもたちに木材の温かみを感じてもらうのだから、芝も人工芝ではなく普通芝のほうが教育によいのでは。それについてご検討されたのか。

そちらも検討させていただいた。ただ天然芝だと藁をまく必要があり、子育て世代には不向きだとのことで、今回は人工芝にさせていただいている。

西川議員

石州瓦について、屋根には載せられないが入り口の壁にはめ込む形で使う予定である。

西村議員

石州瓦のタイルということか。理解した。

キュービクル変圧器の設置と書いてあるが、これはもともと設置計画がなかったものを計画するということだろうと思う。なぜそうなるのかと、その影響による増額について聞きたい。

健康福祉部長

キュービクル設置で約1,300万円上がっている。ただこれは当初ガスと電気の併用を考えていたが、ガスの機械を設置するに当たっても相当の設置費用がかかる見積りがあったため、今回オール電化の形にさせていただき、キュービクル分が1,300万円分増えているが、ガス施設が減ると合わせると600万円くらい増える形になる。5年間分の光熱費を比較すると安くなると計算して、今回オール電化の形にさせてもらっている。

三浦議員

構造が大きく変わってランニングコストへの影響はどのくらいを見込まれているか。計算されているか。

健康福祉部長

今回は木材を使ったため、ランニングコストはまだ計算できていない部分もあるのだが、大きな変更は考えていない。

三浦議員

梁見せの屋根形状を採用など構造が変わることによって、断熱効果が大きく変わるのではないかと想像する。建てて終わりではなくこういう施設は管理するときどのくらいコストがかかっていくかも踏まえて構造を考えていくべきだと思う。

健康福祉部長

先ほど西川議員からの指摘にもあったように、できるだけ環境に優しい施設にしていくことと、エネルギーコストを抑えていくことは、これから公共施設をつくる時に必ず考えないといけないポイントだと思うが、試算していないのはいかがなものかと思う。再度お尋ねする。

概算は出しているがまだ詰めていないので、本当にそうなるかどうかを試算中である。

三浦議員

それほど大きく安くなることも高くなることもない試算である。

現段階では大きく差がないのでこういう構造の変更を採用したと。そのように説明していただければよいのでは。

昨年度に地球温暖化対策実行計画も立てられる中、その計画の中には市内公共施設、CO₂の排出量が多いところが列挙されていたりする。新施設についてはそうした部分への配慮をし

- っかりしていただくことで、計画に定められている目標の達成につながっていくと思う。十分配慮されて今後の計画を進められたい。
- 笹田議員 増額に伴って中期財政計画が変わったと思うが、ほかの中期財政計画に掲げられている施設に影響などは。もしくはこれを踏まえて増額になるような施設があるか。
- 総務部長 当初見込んでいた額より増えている部分だが、中期財政計画はローリングしていく形になる。もちろんほかにもいろいろな事業がある。全体の中で見ていきたい。
- 笹田議員 これは今年度3月の予算で可決したものだが、当時過疎債が2億2千万円をかけて全体でこの施設を建てるとのことだが、過疎債には影響がないのか。
- 総務部長 過疎債は全体の中で動かしていくので、事業費が増えた分については中をしっかりと精査した上で中で調整していきたい。
- 笹田議員 今の話だと、今後増額になる部分の過疎債を考えてないと思う。今8,100万円の中で先ほど説明があったように各種交付金の活用、森林環境譲与税基金、ふるさと応援基金を充当するとあるが、8,100万円のうちの財源内訳はどのように考えておられるか。
- 総務部長 今回こういう形で事業費が増えるとお話をさせていただく中で、細かいところまで最終的に詰めているわけではないが、先ほど議員からご提案があり副市長からも申し上げたように、使えるものは使ってやりたい。有利なもの、交付金、補助金をしっかりと探してやっていきたいと思っている。現在その増額分の内訳は細かくご説明できないが、しっかりと考えたい。
- 笹田議員 この予算の補正は3月に上程されて審議されるのか。
- 総務部長 3月定例会議で審議いただく予定である。
- 川神議長 ほかにあるか。
- (「なし」という声あり)

(3) 浜田漁港周辺エリアの施設整備状況について

- 川神議長 産業経済部長。
- 産業経済部長 (以下、資料をもとに説明)
- 川神議長 ただいまの報告について質疑はないか。
- 西川議員 3月21日オープンとのことだが、仲買業者から聞いたところ設備の不具合というか、トイレが改装されておらず和式のままとのことなのだが。また、コンセント周りが濡れるとも聞いている。どのように対応されるのか。
- 産業経済部長 トイレの件はまだ具体的な話はしていないが、コンセントなど移転に当たり支障が出る部分は個別に話を伺っている。対応できるところは対応していきたい。今後の改修が無理なところは話し合いで解決していきたい。

- 西川議員 トイレについてはかなりの業者が強く言われていたと思う。トイレはやりかえるという答えを口頭でいただいたのだが、今の回答では検討されていないとのこと。実際は改修の検討はされてないのか。
- 産業経済部長
西川議員 トイレの件は発注済みと確認している。
3月21日にオープンできない物販や飲食だが、営業できない補償の状況や考え方を伺う。
- 産業経済部長 2階の飲食テナント部分は、21日に開店するよう第一ビルサービスも非常に努力され、3店舗が決まり、そのつもりで準備していた。ただこういった状況になったので延期せざるを得ない。
3店舗分のテナント賃借料は15万円掛ける3店舗は補償せざるを得ない状況にある。また、今後開店をいつにするかを協議しなければいけないのだが、状況を見ながら当初計画されていた売り上げも見て、既に開店を目指して雇用されている方もおられるので、その辺の補償や支援については引き続き協議してまいりたい。
- 三浦議員 補償の件だが、同施設内でどぶろくの製造をされると聞いている。3月オープンだとお酒の仕込みなどもされているのではと思う。飲食3店舗への補償の件は先ほど伺ったが、同施設内で進められているそういったものがオープン先送りになり販売できないことに対する補償も考えていらっしゃるのか。
- 産業経済部長 どぶろく製造についても今協議しているところだが、逆に製造を止めることが可能かどうかの話をしたときに、製造を始めさせてくれという話があった。製造したものをどうするかは今後の協議、またそれが売れるか売れないかも引き続き協議させていただきたい。
- 三浦議員 愛称についてはこのように確定したと先ほど説明をいただいた。ここに出されている青の波背景の、はまだお魚市場は正式なロゴとして確定したものか。
- 産業経済部長 名前の決定については指定管理者の第一ビルサービスも一緒に検討して、第一ビルサービスから提案されたものである。これを基本に同一ロゴを活用していきたい。
- 西村議員 市役所職員に愛称の募集をかけたとあるが、当然市民も対象にという議論があったのではないかと想像する。あそこが商売的にうまく回らなかった大きな要因の一つに、地元民がなかなか買いに行かない点があった。市民が愛着を持って出かけるような施設にしたいという意図が新しい施設にはあってしかるべきだと私は思う。愛称が決まるまでの議論の過程について知りたい。
- 産業経済部長 またこのアンケートの総数はいくらで、この名称をどういう視点で選んだのか。
最初から公募すべきかどうかも含めて議論した。おっしゃる

ように公募のメリットは「一緒に選ぶ」ことで親近感が生まれ、一緒に盛り上げていくところだと思う。一方でデメリットとしては、提案の自由度が高いために本当に定着する名前になるか、市外から来られた方に一目でわかるかどうか非常に議論になった。

浜田市においてこれまで公募で愛称を募集した中には、ラブック浜田、どんちっちステーション、スマイル、すくすく、おひさま、まんてん、いわみおろち湖といったものがあるが、果たしてこれが本当に市民に定着して、どれだけ使われているか。恐らく利用者はわかっているが、それ以外の市民にはなかなか定着しづらい。中には忘れられるという意見もあった。市民は当然ながら市外の方に、浜田の魚が買える場所だとイメージができるかどうかで、この愛称が選定された。

参考までに他市の例も調べたところ、水産販売施設については名称公募をされているのが3割だった。そのうち、ほとんどが地名を冠したものだ。また、道の駅のランキング上位を占めているのは地名を冠したものがほとんどで、地名をひらがなで表記しているものが6、7割だった。最近でいうと長門の仙崎が「センザキッチン」という名称をつけられた。これも公募ではなく指定管理者がつけられたと伺っている。

こういった理由と経緯を踏まえて、最終的に「はまだお魚市場」に決定させていただいた。

ちなみに職員に名称を募集したところ、全部で60名の方から16件出て、うち38%の人が「はまだお魚市場」を提案されており、それで絞り込みを行った。またこれをもとにワーキンググループでアンケートを行ったところ、11名の議員のうち8名の方が「はまだお魚市場」を推された。

西村議員

そういう議論がしっかりされていれば、それはそれでよい。ただ、なおかつ言えば、浜田市で考えた条件を入れて募集する方法もあったとは思う。

岡本議員

ロゴの権利的なものについて。過去の経験でいうと浜田市の名前を大阪で店名に使っていたということもあったと思う。このロゴに制作費用はかかっているか。

産業経済部長

著作権などはまだ確認していない。これからしっかり確認させていただく。

岡本議員

ぜひ確認していただきたい。「はまだ」も「お魚市場」も一般的な表現なので全国的にあると思う。もしかしたらこの名前を使ってもらっては困るという場合もあるのではと心配している。私は名称に絡むトラブルを経験したことがあるので。

澁谷議員

ブランド力に対する浜田市の考え方についてお尋ねしたい。浜田市は水産については「どんちっち」や「びーびー」などのブランド名によって差別化を図ろうとしておられた。それを考

産業経済部長

えると、「はまだどんちっちお魚市場」とか、「はまだびーびーお魚市場」でもよかったと思うし、そのほうが個性的な気がするのだが。それも検討された上で、「はまだお魚市場」がブランド力にかなうと判断されたのか。

候補としては「はまだどんちっち市場」や「はまだびーびー市場」といったものも候補に上がって検討しているが、最終的にブランドを重視していくこともあると思うが、まずは「はまだ」と「お魚市場」、またあまり長過ぎない名前のほうが看板表記したときもよいだろうという思いもあり、とりあえずこの名前にさせていただいた。

今後は、頭に「どんちっちの何々」といったPRの仕方も出てくるかもしれないが、オープニングの名前としては「はまだお魚市場」にさせていただいた。

西田議員

名前はこれでよいと思うし、それほどこだわる必要はない。肝心なのは、そこに行くと安く魚が買える、おいしい魚がたくさん食べられるといった旧お魚センターとの違い。

それと今、市民は萩のしーまーと、あるいは阿武の道の駅などあちこち市外にお魚を買いに行かれると耳にする。ほかのお魚市場との売り方の違い、有利性をもっと追及していかないと。市民が一番親しんで行きたくなる環境を維持していくことが大事であって、そういうことを考えると、仲買などが経営しやすいような助成を、常に細かく現場に行き運営状況をチェックしながら、細かく寄り添った配慮と支援をする姿勢が一番必要かと思う。ご意見を伺う。

産業経済部長

第一ビルサービスと浜田市とが一緒になって検討し、お魚センターのコンセプトは「ここにしかない、とびっきりいいもの」でやってきている。旧お魚センターに仲買が入って新しく「はまだお魚市場」になって、とびっきりいいお魚を売ろうという方向で間違いなく推していきたい。

それを担っていただく仲買への支援だが、現在も移転に向けて個別の話をしたり、現在の家賃問題も話をさせていただいている。コロナ禍にあって今後の支援については、またお話を聞きながら必要な対応をしなければならぬと考えている。

ただ今回、コロナの第2次事業者支援は、事業者を特定せず全ての事業者に対して支給する支援策になっている。これ以上に各業種に特化したものは、また状況を見ながら検討したい。

西田議員

キャッチフレーズは人を呼び込むためのもので、それはそれでよい。キャッチフレーズも名前も浜田市は上手につけているといつも思うが、よそから人が来たときに、名前から描いたイメージと実際に行ってみたときの違和感があるようではまずい。肝心なのは中身の充実であり、行政が常に寄り添っているいろいろな施策を考えていただきたい。強い気持ちを伺いたい。

産業経済部長

第一ビルサービスに指定管理をお任せする形だが、第一ビルサービスが全責任を負うわけではなく、最終的な責任は浜田市にある。そこまで責任を負う覚悟で、常に現場の状況を把握していただきたい。

これは浜田市の施設なので、お任せということは全くない。浜田漁港活性化ワーキンググループは、計画をつくったときのメンバーがそのまま携わっており、新たなお魚市場も含めてどうしていくかの議論を月に1回開催している。予定どおり開催していたら、オープニングイベントも週末イベントも企画を進めていたところだが頓挫してしまった。

浜田市と関係団体とが一緒になって、浜田漁港活性化については引き続き取り組んでいきたい。

牛尾議員

旧お魚センターが失敗した。二度と同じ轍を踏まないように、仲卸の皆が持続可能な営業ができるような家賃を設定して、これなら行こうとおっしゃっている。

予算決算委員会を思い出していただきたい。危ういところもあったが今度は絶対にうまくいくのだという信念を持っている。二度と失敗できない中で、なぜ市民にネーミングの公募をかけなかったのか。結果的にこの名前の良し悪しではなく。今まで人気を落としていた旧お魚センターではなく新しいお魚市場のスタートに当たり、失敗した轍を踏むようなことをされたのではないかと引っかかった。

第一ビルサービスは今、風の国できちんと営業をされている。一方、コロナではあるが食料品関係は巣ごもり需要で結構伸びている。だから、コロナだから1階の物販と2階のレストランを開けないというのは違うのではないかと。コロナ禍の中で注意をしながらオープンして集客することを堂々とやるべきだと思う。コロナ禍でも売上を伸ばしているところがある。最初から消極的な姿勢でどうするのか。納得いかない。もう少し丁寧に説明してもらえるか。

産業経済部長

牛尾議員と根本的な思いは一緒だと思う。愛称については我々も、失敗しないためにこういう選択をしたという解釈をぜひしてほしい。

なぜコロナ禍を推してでも開店をしないかという話だが、ワクチン接種が終わるまでは決して感染拡大させてはいけないという行政としての思いがある。私も21日に向けて頑張ってお開けしようという話を第一ビルサービスと話していた中での苦渋の決断である。まず浜田市としてはワクチン接種が終わって、皆が安心して始められるように、こういう決断になったということもご理解いただきたい。

牛尾議員

だからその見解が的外れなのである。イズミの入店客数、週末のやなぎ水産の集客を見ると、人はあふれている。十分注意

しておやりになっている。広島県と広島市の交流を今日から可能にしたと聞く。せっかくのオープンなので、十分注意してコロナ禍でもきちんと商売できるという姿勢を示すことのほうが、コロナを恐れて補償の話だけ出すのは、いかにも策がない。こういう時期だからこそ鉄壁な守りをしながらオープンする、それが新しいお魚センターのスタートなのだと。そういう売りもあると思う。正しく恐れて、やるべきことはやる。

市内でもコロナ禍で対前年売上を落としてないところがある。感染者も出していない。わけのわからない恐れ方をするのではなく、きちんと守って売り上げを勝ち取ることをしていかないと、補償だけでは成り立たない。ぜひその心構え、あくまでも営業するのだという気持ちを持って前向きにやってほしい。

市長

部長が申したように、当初は商業棟も含めて3月21日に何とかオープンを目指して動いていた。第一ビルサービスだけでなく、飲食に入る予定の事業者とも私が直接お会いしてご意向を伺ったりした。仲買のお話も伺った。仲買は3月21日に移転するというので当然ご了解いただいているのだが、特に飲食、3月下旬オープンであれば事業者も大変心配しておられる。いくら感染症対策をしっかりやっても、やる以上はお客さんにどんどん来てほしいが、万が一感染が発生したときにはさまざまところに影響があるのではないかと。まだ決定事項ではないが、商業棟についてはもう少し時期をずらすことを考えている。

牛尾議員のご意向もわかる。オープンする以上は人に来ていただきたい思いで進めるので、商業棟の開催時期については、第一ビルサービスやテナント事業者のご意向も踏まえながら考えていきたい。

現時点では少し時期をずらしたほうがよいのではと考えていることだけは申し上げておきたい。

西川議員

愛称については市外の人にもわかりやすいのでよいと思う。決まった以上はこれで頑張ってやってほしいが、ロゴについての意見として聞いていただきたい。

「はまだ」の「は」と「ま」は魚の尾びれをイメージしてデザインされているのだろうが、「だ」の下が中途半端である。もう少し魚を直接イメージできるようなデザインになると、字が読めない子どもにもわかりやすい。

また、明度に差をつけたほうがわかりやすい。

川神議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 令和3年度公立幼稚園園児募集の結果について

川神議長

教育部参事。

教育部参事

(以下、資料をもとに説明)

川神議長

ただいまの報告について質疑はないか。
(「なし」という声あり)

(5) 1月7日からの凍結被害に対する上水道の状況について

川神議長

上下水道部長

上下水道部長。

説明の前に、浜田市は5年前、3年前に続いて今回も、比較的規模の大きな断水が発生し、水道使用者、特に金城自治区の住民には大変ご迷惑をおかけしたことを、まずお詫び申し上げます。

また、断水に至った原因と再発防止策について詳しく説明するために、先週の福祉環境委員会でご説明した資料に一部追加しているのです、そのこともあらかじめお断りしておく。

では資料をごらんいただきたい。

(以下、資料をもとに説明)

川神議長

永見議員

ただいまの報告について質疑はないか。

先日30日に今回の寒波による断水について、今福地区において市から説明を受けたが、中には3日も4日も水が出ない家があり、意見も大変多く出された。断水した結果報告はあったが、なぜ断水したかの説明はなかった。本日説明をいただいたが、先日の説明会の中で、破損箇所三百数十件と説明を受けた。本日の説明では修繕箇所1,279件、それが原因で断水に至ったとの説明だが、内容が若干異なっている点について伺いたい。

また、断水してから日が浅いので再調査もしていただき、二度とこのようなことが起きないようにしていただきたい。計算上のことではなく調査結果と対策については会場からも多くの意見をお聞きになっていると思うが、今後の調査と検討結果の報告をしていただきたい。

上下水道部長

修繕件数についてだが、今おっしゃったのは先週土曜に今福公民館で行った説明会で説明した件数、修繕箇所が320件とお答えしたが、それは金城自治区内での修理件数である。この資料でご説明したのは浜田市全体の修理件数であり、1,279件のうち300件余りが金城自治区内である。

2点目の、公民館で出された意見の中に、再調査や今後の抜本的な対策をしてほしいということについては、裏面6(2)アに書いてあるとおり、施設状況も含めた運用の仕方などを来年度に、場合によってはコンサルも入れて見直したいと思う。それがまとまれば何らかの形でご説明できればと思っている。

永見議員

1,279件で、その結果、破損箇所からの漏水と書いてあるが、配水池の水位の減少については、1,279件は関係ないのか。

上下水道部長

1,279件は浜田市全体の数字であり、320件が金城自治区の件数なので、320件のほとんどで漏水もしていたのだろうが、それが下ノ原と今福中央配水池の水位低下の主な原因ではないかと

- 思っている。
- 説明を漏らしたが、320件というのは先週土曜に今福公民館で説明会をするに当たり、取り急ぎ金城自治区の事業者に伺ったもので、1,279件は月末締め1月の修繕件数を、今週になって伺った件数なので、先週の説明会では説明できなかった。
- 永見議員 家庭内で漏水してなかったのに水が出なかった家がたくさんある。今福配水池は黒川から水を上げて各家庭に送るようにされているが、減圧したことで出た家と出なかった家があり、高いところは漏水がないのに水が出なかった。
- 上下水道部長 元谷の農場あたりの高さがその分岐点になっているという話もよく聞く。このあたりもよく調べていただいて報告していただきたいがいかがか。
- 上下水道部長 配水池から遠いところや標高が高いところで断水が発生したとご説明したが、具体的にこの家までは出たがどこからは出なかったなどということはこちらで把握できていないので、そういう調査も必要かと思う。また調べたい。
- 川上議員 まず今回状況について文書が出ている。今福地区住民の求めにより説明がなされた。このように多大な被害があったにもかかわらず、執行部側ではこの説明をしようという思いはなかったのか。
- 上下水道部長 こちらから積極的に説明会を開くことは考えていなかったが、今福地区からは説明を求める声があったので参加させていただき、説明した。また雲城地区からも説明を求める声を聞いているので、そちらも参加してご説明したい。
- 川上議員 要望があったから参加して説明したいという回答である。要望があったからではなく、上下水道部が積極的に説明会をされるのが当たり前だと思う。5日も6日もとまっていたから、もうどうでもよいという声もあった。
- 上下水道部長 執行部から、いついつこういう説明をするので参加していただきたい、という方向で調整はできないか。
- 上下水道部長 今回断水に至った原因や対策などを考える中で、こちらとしても漏水や破損を防ぐために住民にお願いしたい点があるから、こちらからもっと積極的に出ていくようにしたい。
- 川上議員 ぜひ早急に計画していただきたい。
- 上下水道部長 それから現在手元にある説明資料の6番目を見ると、使っている方々の施設が悪いから断水したのだと読み取れる。しかも1,279件は全市だと書いてないから、今福や下ノ原の方は、自分たちの地域だけでこの件数上がったのかと受け取られる。根本原因が書いてない。あなた方がきちんとしていなかったから破損して水漏れしたのだと取られかねない。その点についてどのように説明されるのか。
- 上下水道部長 今回は全市で起こった断水の説明なので、件数としては全市

の1,279件を記載させていただいたが、金城自治区で発生したのはそのうちの約320件だと、先ほど永見議員にお答えしたとおりである。

根本原因については、一部市が管理する管路からの漏水もなかったわけではないが、水位低下の原因は大規模な漏水である。しかし例えば100軒のうち2、3軒で漏水したのであれば、その世帯の管理がよくなかったということになるろうかと思うが、100軒のうち40、50軒も漏水したとなると、その方だけではなく、我々上下水道部が漏水防止の対応の仕方をうまく説明して対応していただくことには至らなかったことがいけなかった。

川上議員

この資料で説明されると、住民の方々は原因が自分らにあるわけなからうと思われる。私の町内には約53軒あるが、うち8割は水が出なかった。破損も何もしていない。水が出る世帯はしっかり出ていた。そういうところも調査していただきたい。簡単に、ここが破損したから水がとまったのだという書き方をしないでほしい。

1,279件だが、1月6日から破損が始まっている。いつごろどのくらい出たか調査もせずに、簡単に1,279件と書かれたのだろう。通常なら2日目から破損が始まる。しかも実際に金城では10日、11日まで低温が続いている。10日の最高気温がマイナス0.5度、最低気温がマイナス4.5度くらいになっている。ここまで考えていただきたい。お答えいただくなら、しっかり突きとめて、それをもとに住民説明をしていただくようお願いする。

副市長

特に今回金城自治区の皆には大変ご迷惑をおかけしたことを申しわけなく思っている。また本日の資料、確かに見方によっては地域住民の責任のように思われて申しわけない。

本来、漏水などが発生したとしても給水能力がそれだけあれば対応はできるのが基本だが、私どもの給水能力が最大どのくらい見込めるかも重要なことだと思っている。ただこれはハードのものでかなり経費もかかるので、今後の検討課題である。

いずれにせよ、今後また住民の皆には改めて説明会をさせていただくが、その際にはこの資料ではなくもう少ししっかり説明ができてご理解もいただけて、今後こういうことがないようにお互いに協力していただけるような資料を改めてつくって説明させていただく。

西川議員

地球温暖化による気候変動で、異常な寒波は今後も予想されると思うので対策が必要だと思う。再発防止策として示していただいたのが、漏水をカバーするために排出能力を増強するのと、凍結防止策と、2点を示してもらっているが、もう1点重要なことが抜けている。漏水箇所を見つける対策が必要だと思う。

今は水道メーターもスマート化が始まっている。それによって漏水箇所の発見が容易にできる、検針の手間も省ける。コス

上下水道部長

トの問題があるのだが。この水道メータースマート化について、今検討されているか、今後検討するのか。

ご指摘のようにスマートメーターはリモートで現地の給水状況と給水量がわかる。これがあると漏水調査では1軒ずつ回らなくても市役所や水源地等で確認できるので、対応が非常にスピーディになるかと思う。しかし大変コストがかかる。以前議会でご指摘、ご質問があったことは承知しているが、まだ具体的な検討については入っていない。

今回の事態も受けて、今一度設置についてもまた検討していく必要があるかと思う。

西川議員

スマートメーターは業者のIT化において必須なものの一つだと思う。まだ検討されていないようだが長期的なビジョンで検討すべきだと思う。

柳楽議員

今回委員会で出てこなかった凍結防止策の例も上げていただいている。各家庭で防止策を取られることは大変重要だと思うので、どういったやり方が有効なのかをわかりやすい形で、チラシなどで配布するなり情報提供していただくことが大事なのでお願いしたい。

あと給水袋の配付はあるのだが、なかなかそれで十分かといえそうではない。手洗いやトイレの水も思うように使えない状況もあったとお聞きしている。そう考えると、手洗いやトイレの問題を解決する一つの方法として、防災の備蓄品でウェットティッシュや簡易トイレもあると思うので、どうしてもそういったものが必要な場合にはそれら備蓄品を提供することも考えられるのではないか。これも検討いただきたい。

また、長期間の断水となった場合、今回できればこういう支援があったらよかったと思う市民もおられると思う。そういう声もしっかり受け止めていただき、今後の対策を考えていただきたい。

上下水道部長

広報の方法については例えば、今までも浜っ子タイムズにおいて動画を交えて説明させていただいた。今回はそれらも活用したいが、出前講座も上げている。実際に現地に伺って、タオルの巻き方や凍結防止ヒーターの実物を示してご説明できればと思っている。

2点目にいただいた防災備蓄品の活用だが、今回は全然思い浮かばなかった。よい提案をいただいたので、もし次回発生したら、そうしたことも考えたい。

最後に長期にわたる断水の際の市からの支援についてもいろいろご意見をいただければ、そういうことも取り組むよう考えたい。

川神議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(6) その他

川神議長
健康福祉部長

執行部からほかに報告事項はあるか。

先ほど太陽光発電についてお答えできなかった部分をお答えさせていただきます。

太陽光発電について、浜田市子育て世代包括支援センターにおいては当初の計画には入ってなかった。今回業者との協議の中で、設置によって屋根形状に負担がかかり、支える柱をさらに大きくするなど、構造面の変更が必要となり、財政面の負担が大きくなると聞いている。また今回は木育に力を注ぎたかったことから、太陽光発電導入は断念した経緯である。

西川議員

当時計画になかったというのが全然だめである。委員からも事前にやるように指摘した経緯がある。

そもそも地球温暖化に取り組むという市の姿勢として、当初から計画にないというのが理解できない。説明を求める。

健康福祉部長

子育て世代包括支援センターについては平成29年から取り組みを始めており、そのときからの基本構想で当初の取り組みの中では太陽光発電までは入れていなかった。その部分に検討が必要だったことはご指摘のとおりだが、今になればやはり今回の子育て支援センターに設置するのは難しいという結論に達している。

都市建設部長

当初の設計に反映されていなかったということではなく、構造面の補強、それから木造にすること、また屋根の上にソーラーパネルを置くとなると重量も上がるため基礎にも影響し、コストが上がっていく。そういったことを考えて、今の設計条件から外した経緯なので、もともとなかったのではなく、構造面の変更と費用増を考慮して、設計から外さざるを得なかった。検討してないわけではない。

西川議員

市として地球温暖化に対して取り組む姿勢について聞いているのだが。健康福祉部長の答弁と、都市建設部長の答弁とが食い違っている。当初からなかったのか、あったのか、どちらなのか。

副市長

基本的には地球温暖化対策、最近はSDGs。自然エネルギー、特に太陽光を公共施設にも入れるという考えは浜田市全体が持っているので、全く考えてないわけではない。したがって都市建設部長が申したように各施設を建てる際、改修する際に、それが導入できるか、コスト面などいろいろなことを協議している。最終的にその施設には難しいという判断になればやめる。どの施設も全く考えないということではないので。浜田市全体で環境に配慮した取り組みは重要だという認識で、これまでも浜田市に今ある公共施設にソーラーシステムがつけられないかという議論も何度もしているし、学校を建てる時は導入もし

ている。市の考えとしてはシステムを入れるのを前提で考えていることはご理解いただきたい。

西川議員

前提なのはわかるが、あったのかなかったのかが聞きたい。浜田市の地球温暖化対策に対する取り組みが少し弱いのではと思っている。先ほど三浦議員からあったように地球温暖化対策のビジョンは更新されているが、絵に描いた餅になっているのでは。しっかり対応してほしい。

都市建設部長
川神議長
澁谷議員

検討材料に乗っていたので、あった。

ほかに執行部に確認したいことはあるか。

先般の総務文教委員会に、少人数学級編制基準の見直しについてという案件が報告されている。数年間のうちに35人、38人、35人となる学年は、令和3年度から国基準改正後の基準、現行の県基準とするとなっているが、これが12月には現行のままのクラス編制でやってほしいとの請願が提出されている。しかしこの説明を見るとその場しのぎのような形に見えるのだが、どのように理解したらよいか。

教育部長

少人数学級についてはもともと島根県が独自にやっていたものを国基準に合わせる方向性を出した。その後新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校の密を避けることから40人学級を35人に、という国の方針がまた示された。その中で現時点で出されていた県の方針が少し変わる方向に向かったことが現状である。国基準にした場合は令和4年度には最大で原井小学校だと4クラスくらい一気に減るような資料も出したが、今回は段階的にするというので、現在では令和4年度で1クラスかなと。

ただこれ、昨日の新聞でも松江で要望が出されたが、全ての学年を35人にされたということもある。教員の確保も必要になる。一方では教員応募が過去最低の倍率だったということもあり、教員確保の側面も含めて国も文部科学省もいろいろ動かれている。

現時点では一部緩和された県の状況の中で、令和2年度から2学年については35人になると聞いている。今後いろいろな要望の中で市としても要望していきたいと思うが、教員確保も含めて要望していきたい。予算のこともあるので今後も検討、調整しながら進めていきたい。

失礼、数字を誤っていた。35ではなく32である。

澁谷議員

兵庫県養父市が農業特区を全国に広げることになったことが抵抗勢力になり、養父市だけの延長になった。一方、小クラス編成にという文部科学省の案は財務省が最大の抵抗勢力で少人数学級にしても学力が上がるという科学的根拠はないというわけのわからない理屈で大反対した。それが結果的に少人数学級ということに今の政府が押し通した。これは農業特区とはまるきり違った対応したくらい、力が入っている。

島根県のクラス編制を大きくして、子育て支援の側の、放課後児童クラブの時間延長に予算を振りかえるという考え方は、根本的に国の大きな政策からすると逸脱していることが明確になっているのに、小手先の変更のように見える。浜田市教育委員会は県の教育委員会に対して、きちんと旗色を鮮明にされたのか。浜田市教育委員会のものの考え方が伝わってこないのだが。

教育部長

少人数学級制の維持については従前どおり県の要望事項にあるので、引き続きやっている。県は県なりに考えて国の方向性に合わせて少し緩和されたものと思う。

ただ私どもとしては当然少人数学級をこれからも進めていきたい思いがあるので、要望活動は引き続き行っていきたい。

川神議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

では以上で議題1を終わる。執行部はここで退席されて構わない。

《 執行部退席 》

2 地域協議会との意見交換会の実施について

川神議長

議会広報広聴委員会三浦委員長。

三浦委員長

議会広報広聴委員会より議員各位にご報告、ご意見を頂戴したくお時間をいただいた。内容は配信した資料のとおりである。

(以下、資料をもとに説明)

川神議長

ただいまの三浦委員長の報告についてご意見はあるか。

布施議員

こういう計画をされたことについては、非常に前向きで一歩進むのでよいと思うが、地域協議会との意見交換、今は5地区しかない。浜田自治区は人口割り、面積にしても一つしかない状態で、地域課題が幅広い。中山間もあれば海側の商店街もある。地域課題を幅広く聞くのだと三浦委員長は言われたが、浜田自治区は、まちづくり協議会ができていところ、単独町内会ができていところの差もあるし、ましてやまちづくりセンターに対する認識にも温度差がある。公民館の主事に聞いたり、公民館に出入りしている住民の方にも聞いたが、4月から変わることもさえない方がたくさんいる。市がいくら広報をされたところで、住民がそこを理解しておらず、地域協議会の正副会長が問題を本当に吸い上げているか、非常に疑問である。

そこを踏まえた上で、正副会長にきちんと説明されての進め方を力強くやっていただきたいのだが。

三浦委員長

ご指摘に感謝する。おっしゃるように浜田自治区は大変広域にわたっており、地域協議会のあり方も、さらに分割すべきではないかという意見もこれまで議会の中で出てきている。ただ今現在の地域協議会の制度自体が、5地域に分割されるものなの

でこうしたところを基準に考えているが、浜田は各地で抱えている問題も温度差も違う。浜田地域協議会の正副会長にもお会いすることになっているので、ご意見を伺ったり今日のご意見を踏まえて17日の議会広報広聴委員会でさらに委員と協議したい。

岡本議員

意見交換会を実施するに当たり、どのように来ていただくかについては、正副委員長がケーブルテレビに行ってお案内する話もあるのか。

今まで議会報告会なりいろいろやっても、なかなか人が集まらない。そういう中でどういう手法を取るか。地域協議会の正副会長を訪ねて来てくださいますか。広報に対する手立てがあればお示しいただきたい。

三浦委員長

ケーブルテレビへの出演については先般も皆にご意見を求めた、市民一日議会の広報については今後ケーブルテレビの番組に出演することで告知並びに募集の周知を図っていくよう進めている。

今日ご相談の件については、地域協議会の方々との意見交換会なので、時間については例えば地域協議会が開催される日の、議題に入る前段、あるいは議題が終了した後半ということで、地域協議会にご負担をかけないように開催する方法もあるのではないかと。あるいはそういうたてつけでやるとどうしても時間が限られてくるので、地域協議会の正副会長に伺って、別途十分時間を取ったほうがよいのであれば、少しご負担いただくことにはなるが地域協議会を別途開いて、メンバーの方とそこに派遣する5名ないし6名の意見交換。今回についてはどのように参加を増やすかについては考えていない。

岡本議員

私のほうが理解が違っていたようだ。浜田自治区全体を一協議会でという形についてはいろいろ言われたが、私は公民館単位がよい。浜田においてはどうしても5人では足りないという背景を見たときに、公民館を基準にして公民館長やその今後の主たる人にも参加していただくことも、意見を吸い上げやすいのでは。各々地域の条件があり、感じ方が違う。ぜひそこに配慮していただきたい。

牛尾議員

所管委員会のアイデアはすばらしい。一言申し上げたいのは、我々は議会基本条例において議会報告会の開催を市民に約束している。その議会報告会がまだ開かれる前にこういう会議をされるのは順序が違うのでは。我々ができていない議会報告会をまずやって、その後で違うやり方としてこういうことをおやりになるのはよいと思うが。基本条例内でうたっていることができてないことについて、もう少し議論してほしい。

柳楽議員

実施概要ではテーマは特に設けずということで書かれているが、結局自治区長もおられなくなる中で地域協議会の役割が大

三浦委員長

きくなっていくだろうし、大きくなければいけないと思う。地域協議会の皆が今後の地域協議会の役割について、どういう不安を持っておられるかなどは、せつかくなので聞く必要があるのではないかと思う。そこを検討していただけたらと思う。

ご意見に感謝する。牛尾議員のご指摘、柳楽議員のご指摘、岡本議員、布施議員、それぞれについては17日の委員会ですっかり検討しながら、地域協議会との意見交換会が意味のあるものになるよう、実施の中身の設計を検討したい。引き続きご協力をお願いします。

川神議長

この件に関しては終了する。

3 その他

川神議長

私から2点ほど皆にお知らせ並びにお願いしておきたい。

1点目は議長なんでもメールについて。市民から議長なんでもメールの提案や問い合わせを、市民の誰でも見られるように改善してほしい。広報広聴機能が強化され、市民もより一層議会に対する信頼を増す、というご意見が寄せられた。

私としても市民に開かれた議会を推進していく上でも大変有効なご意見だと思う。については今後いただくものについては、個人情報に関するもの、もしくは個人が特定される内容を除き、要旨と議長の回答を市議会ホームページ上にて紹介させていただければと思う。皆にご理解を求めたい。

もう1点。昨年2月25日の全員協議会で政策討論会は提言や条例作成が最終目的ではなく、その過程の議論が大事である。各委員会でさまざまなテーマについて討議を重ね、議会での共通認識を図り合意形成をすることが必要な課題の整理ができた段階で政策討論会幹事会へ議題提出をお願いしたい、このように申し上げた。また各委員長に対して、今任期中の最低1回の議題提出をお願いしたところである。各委員会で頑張って取り組まれている状況は会議録で報告を受けているが、議員全員が共有しておいたほうがよいと思うので、現在の各委員会での進捗状況、次回の2月24日の全員協議会において各委員長から報告いただきたい。この件はよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのように取り扱いしていただければ結構である。

最後に事務局長から連絡する。

古森局長

定例会議が2月24日から始まるので、締め切り日の確認を改めてお願いします。代表質問・一般質問については2月15日(月)の11時である。ファックス・メールの場合は12日金曜の11時までとなる。今回の持ち時間は、代表質問は各会派ともそれぞれ10分の短縮、一般質問はそれぞれ20分なので、質問項目の精査をお願いします。

川神議長

請願・意見書・決議については2月12日（金）が提出締め切り
となっている。よろしく願います。

よろしいか

（ 「はい」という声あり ）

では以上で全員協議会を終了する。

[12時 11分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 川 神 裕 司